

# 内臓治療×頭蓋仙骨療法 オンライン講座



ALLアプローチ協会  
代表 山口 拓也

# ALLアプローチ協会

## 理念



ALA  
ALLアプローチ協会

- セラピスト自身が患者様に全力で向き合えるよう健康、笑顔、治療技術を提供しセラピスト自信が幸せになっていただく。
- 患者様の悩みの解決、夢をサポートできるようにすべての治療テクニックと生活習慣にもアプローチできる本物のセラピストを生み出していく。
- ALLアプローチ協会に関わって頂いたすべての方を笑顔にしながら人と人のつながりを作る

# 自己紹介

- 名前
- どこから来たのか？
- 職業
- 趣味、特技
- なぜ、このセミナーに来たのか？
- 今後の夢、ビジョン

共通点を探す!!



# セミナーをやってる理由

①他のセミナー団体は、筋膜リリース・内臓治療・頭蓋仙骨療法・経絡治療・エネルギー治療・操体法・心理学・栄養学を全て学ぼうとすると100万以上かかってしまうから。

例：ベーシックコース→アドバンスコース→マスターコース  
レベル1→レベル2→レベル3

②根本的に解決するには、治療テクニックではなく生活習慣が必要だから

(栄養指導・メンタルアプローチ・Oリング)

# 事務連絡

休憩は、約 1 時間30分に1回ほどあります。

トイレ

楽しく真剣にセミナーしていきましょう

ルール(セミナー中は、楽しく・敬意を持って、質問OK)

# 自律神経とは…

## 自律神経(交感神経と副交感神経)の働き

交感神経 [活動]		副交感神経 [休息]
脈拍が速くなる	心臓	脈拍が遅くなる
収縮する	末梢血管	拡張する
上昇する	血圧	低下する
拡大する	瞳孔	縮小する
運動抑制する	腸管	運動亢進する
気管支が緩む	気道	気管支が収縮する
亢進する	発汗	低下する

- 自律神経とは…

血管、リンパ腺、内臓など自分の意思とは無関係に働く組織に分布する神経系のことであり、呼吸や代謝、消化、循環など自分の意思とは無関係で生命活動の維持やその調節を行い、絶えず活動している神経である。

- 交感神経とは…

緊急時やストレス時に働き、心身を活発にする神経です。

具体的には、激しい運動、興奮や緊張時、恐怖や危機を感じているとき、頑張っているときなどです。

ストレスに反応して働くため、ストレスの多い現代社会では交感神経を必要もないのに高ぶらせてしまい、それが様々な症状の原因となっています。

- 副交感神経とは…

心身を休め回復させる、体のメンテナンスを担う神経です。

交感神経が緊急時に頑張るための神経なのに対し、副交感神経は睡眠時、休息時などリラックスしている時に働きます。

現代人はストレス過多で交感神経を発動させやすいので、副交感神経の働きが低下しやすくなっています。

副交感神経が働かないことで体の回復力が低下し、様々な症状が起こりやすくなっています。

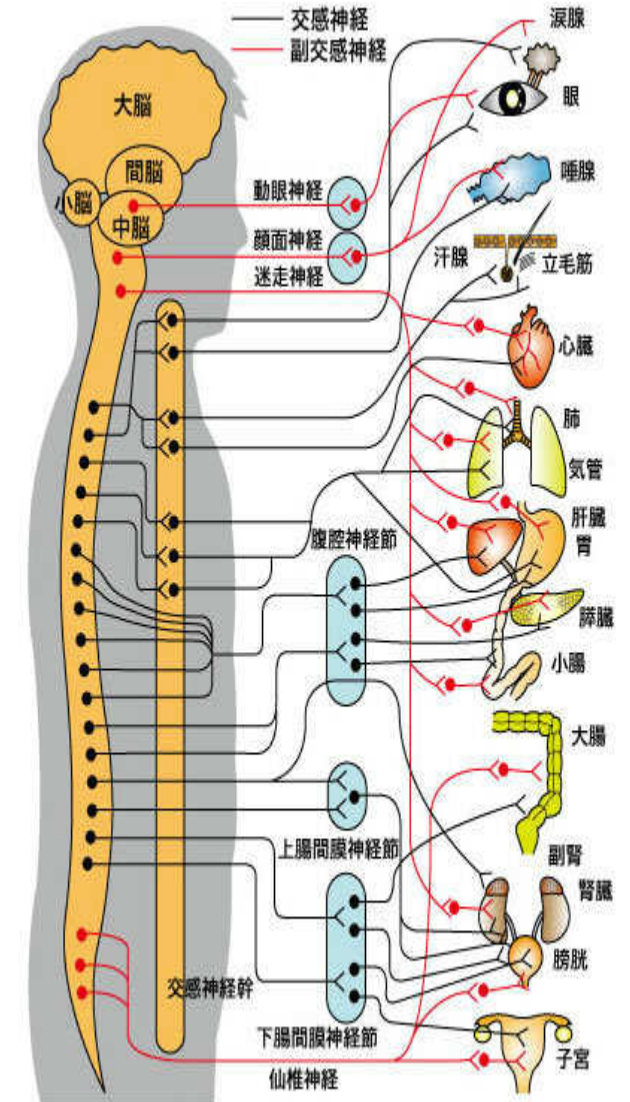
# 自律神経障害について…

- 交感神経と副交感神経の2つから成り立つ自律神経機能の失調によると思われる病態の総称

・自律神経相障害の症状一覧…

めまい、冷え性、冷や汗が出る、体の一部が震える、緊張するようなどころではないのに動悸が起こる、血圧が激しく上下する、急に立ち上がるときに立ち眩みが起こる、朝起きられない、耳鳴りがする、吐き気、頭痛、微熱、過呼吸、倦怠感、不眠症、生理不順、味覚障害といった身体症状から、人間不信、情緒不安定、不安感やイライラ、被害妄想、鬱状態など精神的な症状が現れることも多い。

自律神経の図（交感神経と副交感神経）



交感神経：活動する時に働きます 副交感神経：休息時に働きます

# 内臓治療の基礎

## 【内臓治療の目的】

① の機能を上げる目的に行います。  
排泄(解毒)、同化(吸収)、適応(免疫)、生殖、成長  
を通して自然治癒力を高める能力の事

② を変えるため...  
( )の ( ) など)をかえてあげる。通常  
3ヶ月かかることを覚えておく。

• ③内臓システム、各臓器の機能と役割

排泄(解毒)、消化、吸収、免疫、循環、代謝、生殖、ホルモンの  
8つのシステム・機能が内臓それぞれにある。



# 内臓 8 つのシステムについて

- ・ 消化 ⇒ 肝臓、胆嚢（たんのう）、膵臓、胃、十二指腸、小腸（空腸）、大腸
- ・ 吸収 ⇒ 肺、小腸（回腸）、大腸
- ・ 代謝 ⇒ 肝臓
- ・ 循環 ⇒ 心臓、肺、肝臓、脾臓、腎臓
- ・ 免疫 ⇒ 肺、肝臓、脾臓、小腸、大腸（盲腸）
- ・ 排泄 ⇒ 肺、肝臓、腎臓、大腸、子宮
- ・ 生殖 ⇒ 子宮、卵巣
- ・ ホルモン分泌 ⇒ 脳、膵臓、副腎、卵巣

# 内臓治療の考え方

内臓は、マルチタスクが行えないです。  
(1つの事しかできない)

免疫、排泄、消化、吸収などを1つの臓器は同時に行えません。

肝臓や腎臓などは、様々な機能を持っているため他の内臓機能が下がるとカバーしようとして負担がかかりやすいです。

(マルチタスクが行えないを例にして解説)

- ・ 風邪
- ・ リウマチ
- ・ 内臓摘出など

# 内臓治療の考え方② 構造のズレ

内臓は、**背側**、**下方**にずれていることがほとんどです。  
腹側・上方にしっかりリリースしてあげましょう！

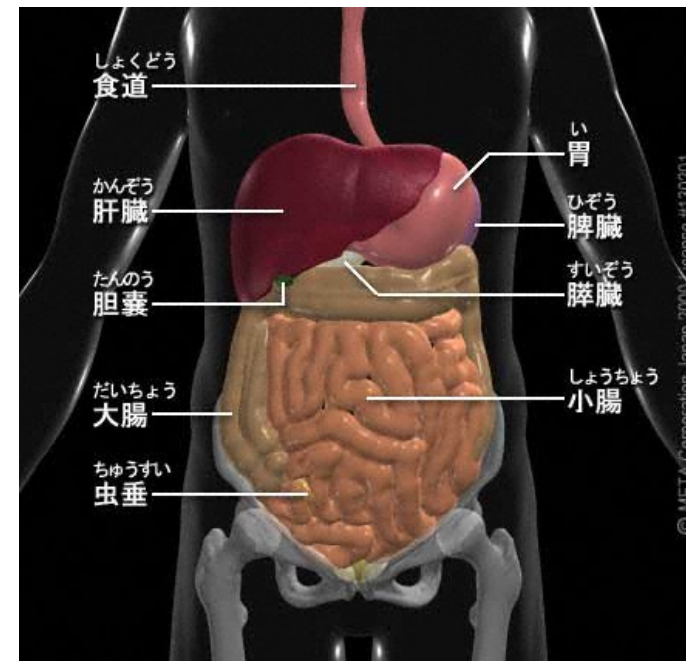
(内臓がズれることによる二時的な問題について)

- 例えば、肝臓が背側、下方にズレたらどうなると思いますか？

(内臓がズレると機能が下がる理由)

内臓は正しい位置に収まっていないと  
脳が認知して指令を出すことができなくなってしまいます。

内臓自体は平滑筋であり、脳が認知して自律神経を介した  
活動しなければいけません。



# 内臓治療を行うための方法について？

- ①内臓のストレッチを起こす
- ②内臓に關与する血管にアプローチを加える（ポンプ）
- ③内臓に対して圧刺激を加える（プレス）
- ④内臓に熱刺激を加える
- ⑤共鳴、調和を引き起こす
- ⑥内臓反射点リリース
- ⑦経絡アプローチ
- ⑧チャクラアプローチ
- ⑨解毒解法テクニック
- ⑩頭蓋仙骨療法からの内臓アプローチ

（イメージで治る流れ）

仙骨・脊椎→脳脊髄液・脊髄  
→脳→末梢神経or中枢神経→全身

【周波数→共鳴、同調→調和について】

- ・周波数を合わせる→イメージが伝播できる→共鳴（内蔵が反応する）
- ・同調（相手に合わせていく・治療部位をしっかりと意識する）→調和（相手と一体になりイメージが波及できる）

【内臓治療の練習】

イメージで自分の内臓を緩ませる

# 内臓治療 好転反応

## 【好転反応とは？】

- ・ 治療の過程で一時的に起こる身体反応のこと。反応の程度はさまざまである
- ・ 主訴となる症状が一過的にぶり返したかのように見える場合もある。
- ・ 溜まっていた老廃物が血液中に流れること等が要因として考えられる



- ・ 患者様への説明が重要（一時的に悪化する可能性がある）

好転反応＝体が改善されていく時に起きる成長痛



- デトックス効果や抗酸化作用のあるものを摂り続けると起きる
- 改善が大きい所（＝悪くなっているところ）ほど反応が大きい
- 発生には個人差があり、起きない人も多い

# 頭蓋仙骨療法とは・・・？

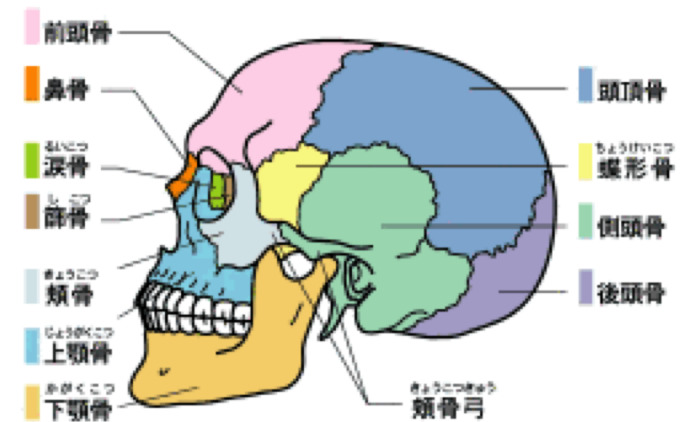
頭蓋仙骨療法とは・・・



手技で頭蓋骨から仙骨までを調整をする手技療法です。

【なぜ、我々は頭蓋仙骨療法を学び実践するべきなのか？】

■ 頭蓋（側面）



# 頭蓋仙骨療法の目的・変化・効果

## 【目的】

- 1：体液の質改善:脳脊髄液、血液の循環、ホルモン分泌
- 2：エネルギーの循環:自然治癒力の促進

## 【変化】

- 1：頭蓋骨の可動域拡大
- 2：頭蓋仙骨リズムの改善
- 3：硬膜の緊張緩和による静脈循環と神経拘束の改善
- 4：深部体温の改善

## 【効果】

- 1 脳血流、脳の栄養状態改善
- 2 脳圧の減少
- 3 意識や覚醒、学習効果向上
- 4 深部体温上昇→酵素の活性化→ホメオスタシス正常化→自然治癒力向上
- 5 自律神経、ホルモンバランスの改善
- 6 中枢、末梢神経症状の改善
- 7 慢性疼痛、痺れ、耳なり、頭痛、めまいなどの改善
- 4 眼圧の正常化、視野や慢性疲労の改善
- 8 呼吸機能の改善
- 9 ボディーバランスのアップ

# 脳脊髄液について

## 【脳脊髄液の流れについて】

産出:側脳室、第3脳室、第4脳室の脈絡

側脳室→モンロー孔→第3脳室→第4脳室→マジャンディー孔→ルシュカ孔→くも膜下孔→くも膜下腔

吸収:静脈(上下矢静脈洞、直静脈洞、横静脈洞)、外側裂孔のくも膜顆粒

## 【脳脊髄液について】

特徴

- ・1日3~5回入れ替わる
- ・全130m

## 【役割】

- ・中枢神経の緩衝作用
- ・中枢神経の栄養
- ・神経伝達
- ・自然治癒能力
- ・脳や、脊髄の中にある神経を栄養、新陳代謝
- ・老廃物を排出する役割
- ・静脈リンパの循環の促進
- ・内臓機能の高める
- ・関節包を弛緩させる。
- ・ホルモンの運搬



# 1次呼吸

## 【1次呼吸】

- 1分間に6~13回のサイクル
- 1サイクルは屈曲相(呼出期)と伸展相(吸収期)

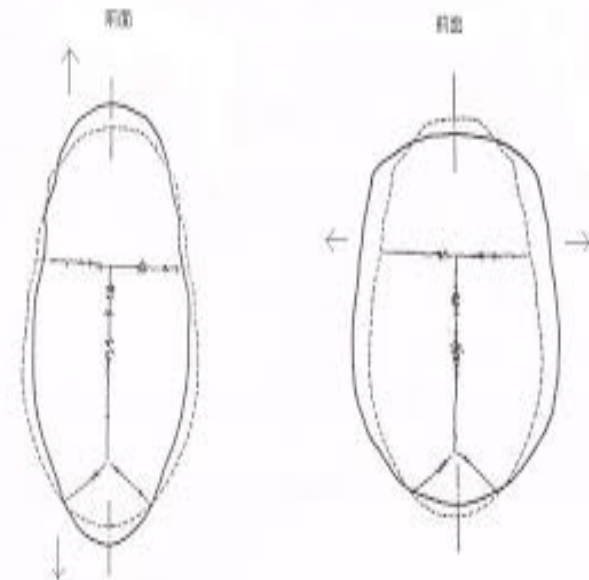
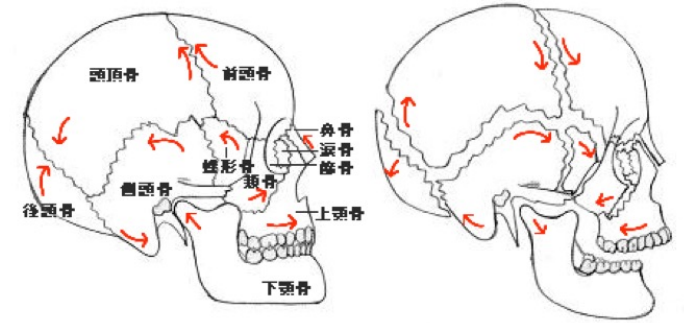
(屈曲相：呼出期)

頭蓋骨の左右が拡大、仙骨後傾、下肢外旋

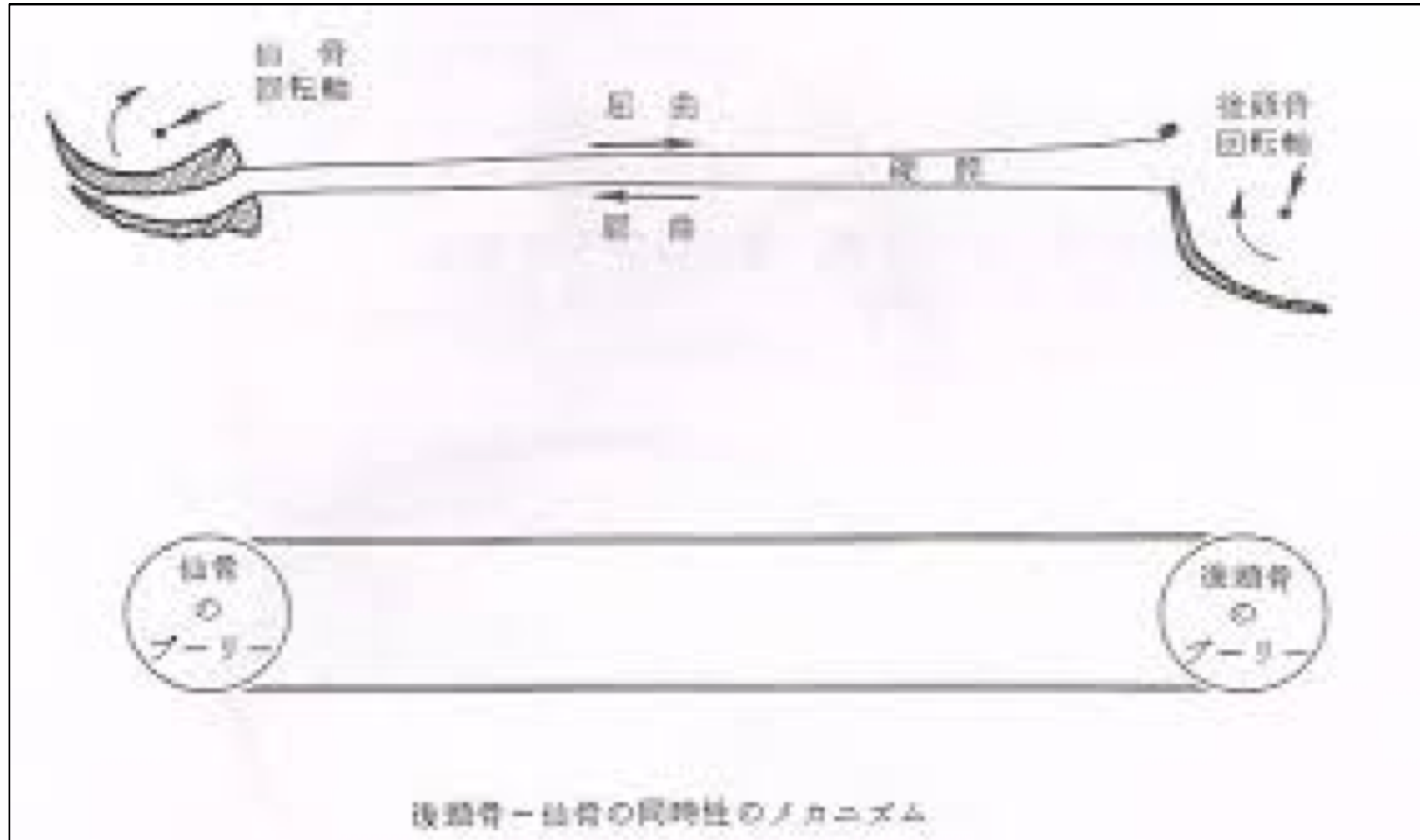
(伸展相：吸収期)

頭蓋骨の前後が拡大、仙骨前傾、下肢内旋

早い人・強くて早い→急性期、悪くなりかけ、風邪のひき始め、動機  
遅い人・ゆっくりで弱い→弱っている、高齢者



# 頭蓋仙骨リズムについて



# 頭蓋の指標

- ①頭の重さ
- ②対応する臓器の状態
- ③反射点
- ④ROM
- ⑤ボディーバランス
- ⑥1次呼吸
- ⑦熱のこもり

# 頭蓋と内臓の関係について

## 【頭蓋と内臓の関係について】

- 1 前頭骨: 肝臓(左右)
- 2 側頭骨: 腎臓(左右)
- 3 後頭骨: 脾臓(左) 小腸(右)
- 4 頭頂骨: 副腎、子宮
- 5 頬骨: 膵臓(膵尾→右 膵頭→左)
- 6 上顎骨: 肺
- 7 蝶形骨: 心臓(右は横隔膜付近)

# 頭蓋仙骨療法の覚えて欲しいワード？

① 1次呼吸・2次呼吸

② 頭蓋仙骨リズム

③ 脳脊髄液

④ 硬膜

⑤ 縫合

- ・ 矢状縫合

- ・ 冠状縫合

- ・ ラムダ縫合・鱗状縫合

⑥ ギアの動き（歯車）

# 頭蓋仙骨療法をうまく行うためには・・・？

## 【頭蓋仙骨テクニック治療のコツ】

- ・ 頭蓋骨の解剖イメージ
- ・ 頭蓋仙骨リズムに同調
- ・ 頭蓋骨の動きを感じる
- ・ 骨でタッチ
- ・ 相手へエネルギーを伝えるパイプ役になる
- ・ 身体を緩ませる、姿勢、身体操法

# 頭蓋仙骨療法 治療の順番

## 【まとめ】

- ①骨盤周囲の筋膜調整
- ②仙腸関節アプローチ
- ③脊柱周囲の筋膜調整
- ④脊柱アライメント調整
- ⑤硬膜管リリース
- ⑥頭蓋周囲の筋膜調整
- ⑦頭蓋骨のアプローチ 外側
- ⑧頭蓋骨のアプローチ 内側

# 冷え性へのアプローチ

## 【冷え性とは…？】

特に手や足の先などの四肢末端あるいは上腕部、大腿部などが温まらず、冷えているような感覚が常に自覚される状態のことである。西洋医学的には漠然とした概念として捉えられている

冷えを感じている方でも、実際に体温を測定すると決して低くはない場合もあります。

冷え性が女性に多く見られるのは、筋肉量が男性に比べて少なく、**体脂肪率が高い**ことと、**月経の影響で腹部の血流が滞りやすい**ことが原因だと考えられます。

## 【冷え性 内臓治療アプローチ】

免疫・循環に関与する内臓を中心にアプローチする。

- ・免疫→肝臓、脾臓、胸腺、小腸、肺
- ・循環→肝臓、腎臓、肺、心臓も関与
- ・代謝→肝臓、胃、腸
- ・子宮アプローチ

## (基礎代謝)

38%が筋肉、**12%が肝臓**、**胃**、**腸がそれぞれ8%**、**脾臓が6%**、**心臓4%**と内臓なのの中でも熱産生に非常に関与するのが肝臓です。

## 【冷え性 筋骨格アプローチ】

(DFLの調整を中心に行う→脾経)

- ・横隔膜、大腰筋、腸骨筋、骨盤隔膜、骨盤調整、内転筋、後脛骨筋

## 【冷え性の種類】

### ①下半身型

足は冷えるが、手などの上半身は冷えず、30代から中高年の男女に多く見られ、冷え症の中でもこのタイプに当てはまる人がもっとも多い。

冷えのほかに痛みやしびれを伴う場合は、閉塞性動脈硬化症や脊柱管狭窄症が原因として考えられます。

### ②四肢末端型

手や足の先から冷えるタイプで、いわゆる「末端冷え性」と呼ばれます。

痩せ形でダイエット志向の強い若い女性に多く、冷え症の代表的なタイプと言えます。

食事量の不足や運動不足が原因で熱生産量が少なくなり、体温低下を防ぐために交感神経が優位になり、血管が収縮することで、冷えが起こります。

### ③内蔵型

手足や皮膚の表面は暖かくても、体幹深部の体温は低いタイプ。

30代以上の中高年の男女に多く見られ、特に消化管が冷えているので、腸にガスが溜まって腹部に膨満感が出やすくなります。

また、交感神経よりも副交感神経が優位になるため、寒さに対する血管の収縮反応が弱く、四肢末端型とは逆に熱が放出されやすくなって体温が低下します。

### ④全身型

全身が冷えるタイプです。

原因は基礎代謝の低下、食事量不足、運動量不足、慢性的なストレス、不摂生などによる体力低下などで、極端に熱生産量が少ないことに起因します。

また、甲状腺機能低下症によって全身が冷えている場合もあるため、

必要な場合は病院の受診が必要となります。



# 冷え性の原因

- ・ 食事摂取量不足
- ・ 運動不足、筋肉量の減少

単純に運動をすることでカロリーを消費して熱を生産することができます。筋肉量の減少はそのまま熱生産の低下につながりますが、

筋肉の量だけでなく、使えている筋の量も重要となります。筋の量は同じでも、硬結や筋の滑走不全で使えている筋組織が減少すれば

一番熱を作り出せる筋の状態は、

伸縮を自在にコントロールできる状態です。

筋は収縮でも弛緩でも A T P を使用します。そして収縮をすることで、血液・リンパ液を循環させるので熱・循環を作り出せる筋・関節運動連鎖を意識することが冷え性に対抗する体づくりの大切なポイントになります。

# 冷え性原因②

## 【生活習慣の要因】

- ・ ストレス
- ・ 不摂生（食生活・飲み物含む）
- ・ 喫煙
- ・ 高血圧
- ・ 高コレステロール血症
- ・ 糖尿病による動脈硬化

運動不足や不摂生、喫煙や高血糖などはすべて血液の質や血管の柔軟性を低下させ、抹消血流に影響を与えます。

赤血球は、血液中に腸から漏れ出た、糖・脂質・たんぱく質や有害物質によって血球同士がくっついてしまい、末梢血管を通ることができなくなります。（ルロー）血球の状態が悪いと末梢の細い血管を通ることができなくなり、末梢栄養が低下することで神経系の異常感覚として冷えを感じやすくなってしまいます。

また日常的に冷たい水分を取り続けることも深部体温の低下につながりやすくなります。

適度な冷水はミトコンドリアを活性化してくれますが、度を越えた冷水の摂取は代謝能力を低下させ、細胞の活動を低下させてしまいます。効率的に細胞にエネルギーを送れなくなると基本的に熱生産は低下してしまうので、血質、特に赤血球の質にも注意しましょう。

# 肝臓治療・胆嚢治療

## ■内臓反射点

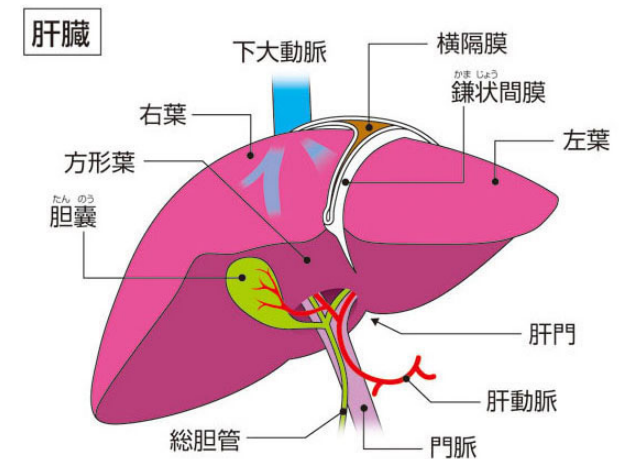
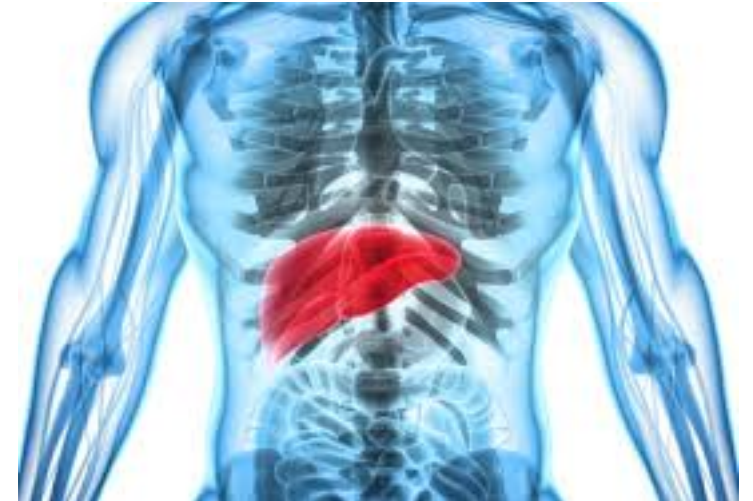
- ①右母指の水かき
- ②第2肋骨中央
- ③アキレス腱移行部
- ④右上腕内側

## ■肝臓評価

- ・胸郭の硬さ、反射点の硬さ、頭蓋（重さ、1次呼吸）
- ・ROM（右肩・体幹）

## ■治療方法

- ・肝臓ポンプテクニック
- ・肝臓プレステクニック
- ・肝臓リフトテクニック
- ・肝臓＋前頭骨アプローチ
- ・胆嚢プレス



# 脾臓リリース

## 内臓反射点

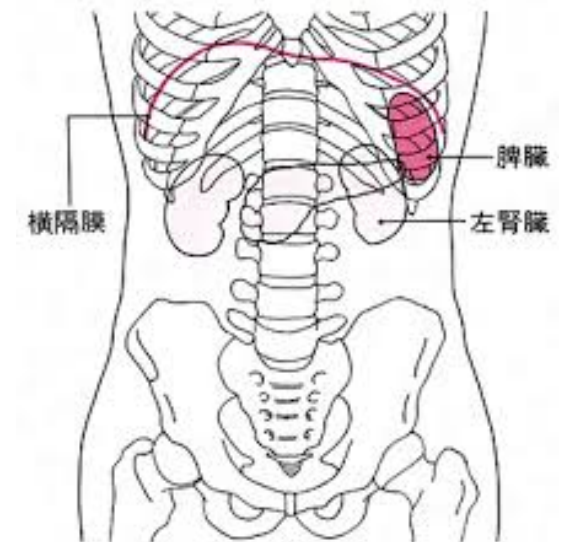
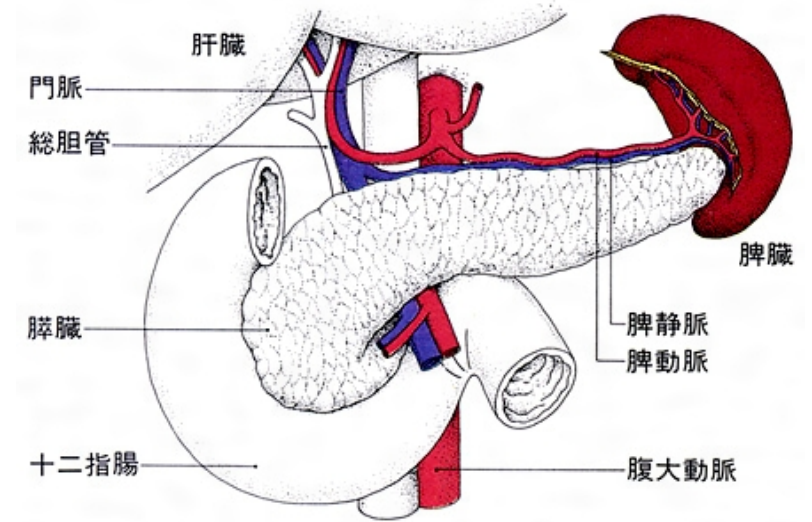
- ①左母指水かき
- ②左恥骨
- ③TFL

## 内臓評価

- ・ROM（左肩、左頸部）

## 内臓治療

- ・脾臓リリース
- ・脾臓リフト



# 便秘へのアプローチ

## 【便秘になる内臓の原因について…】

- ①咀嚼不十分②胃液の消化不十分③胆汁、膵液不足④十二指腸の影響⑤肝臓や脾臓が結腸曲を圧迫  
⑥小腸、大腸の硬さ、歪み

※胃酸を水が薄める要因について

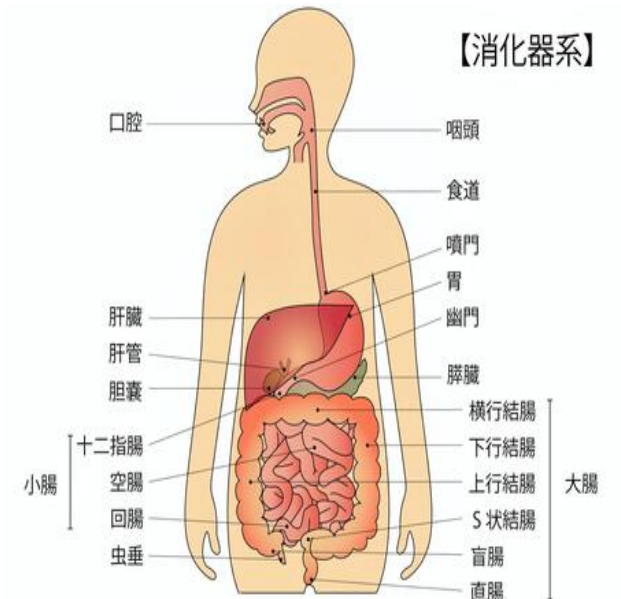
## 【便秘に必要な内臓治療】

- ・排泄系にアプローチ

胃、十二指腸、肝臓、脾臓、膵臓、胆のう、小腸、大腸  
腹膜、頭蓋仙骨療法（蝶形骨・後頭骨）

## 【便秘に必要な筋骨格アプローチ】

横隔膜、大腰筋、腸骨筋、骨盤隔膜  
内転筋群、仙腸関節



# 小腸リリース

## 内臓反射点

(回盲弁 反射点)

①右母指球の近位部 ②第3肋骨の外側(右)

(S状結腸 反射点)

①左母指球近位部 ②第3肋骨外側(左)

## 小腸評価

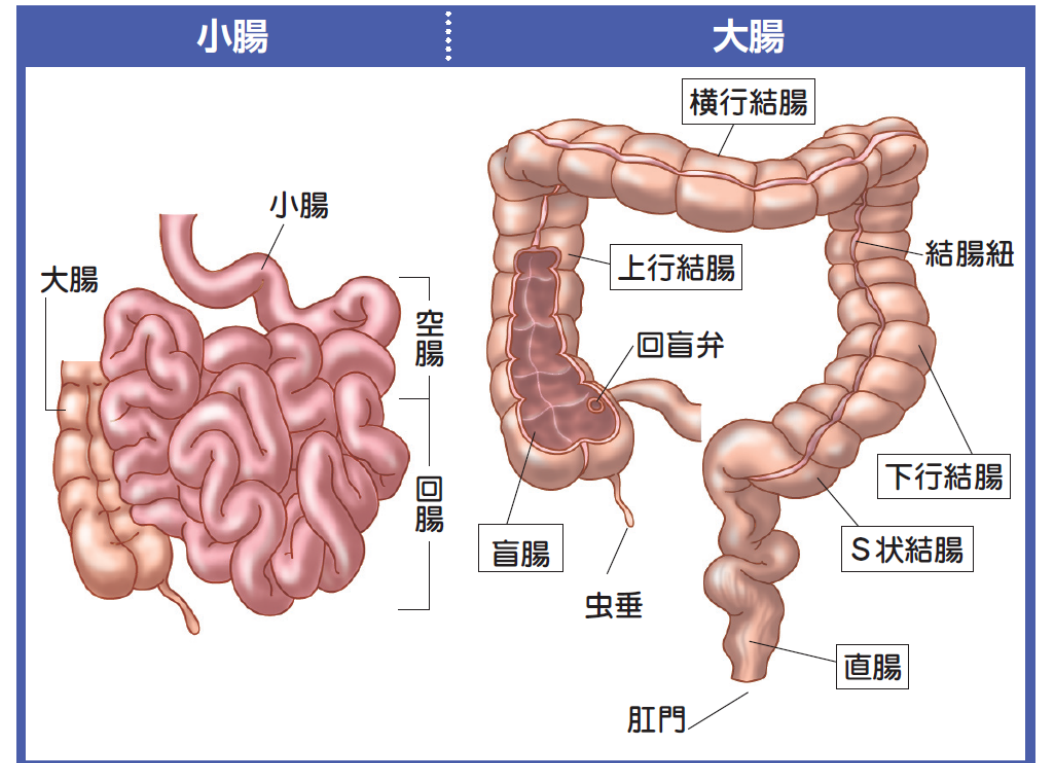
①反射点硬さ

②ROM (体幹伸展・屈曲)

③小腸可動性

## 内臓治療

- ・小腸リフト
- ・回盲弁リリース
- ・S状結腸リリース



# 生理についての話

## 【まず、生理について！】

生理というのは、簡単に言うと「**子宮の掃除**」と考えていいと思います。あと、女性が妊娠を成立させる準備でもあります。排泄と生殖の機能を持ってるってこと。

解毒ってことですね。悪い油は、毒素をため込んでしまうので注意。

## （覚えて欲しいワード PMS）

★PMS（月経前症候群）＝生理が始まる2週間前に起こる心と体の不調の事ってことも覚えておいてくださいね！ ※PMSの原因とは？  
→①黄体ホルモンの影響 ②セロトニンの低下 ③ビタミンやミネラル欠乏 注意点としては、食事やストレスでPMSがさらに悪化してしまう危険性があるので患者様への指導が必要…

## ★PMSの症状とは？

（身体面）下痢、頭痛、吐き気、便秘、食欲不振、浮腫みなど

（精神面）イライラ、集中力低下、興奮状態、不安が高まる、無気力など

## ★PMSの時期とは？

生理→卵胞期→排卵期→黄体期（ここがPMSの時期）→生理

# 生理痛の評価

## （問診評価について）

まずは、期間です。しっかり正常な期間で生理が経過しているのか？短すぎないか？長すぎないか？など。痛みは？  
正常な期間は、**4～5日**だと思ってください！なので、1, 2日だと短すぎですし8日だと長すぎます…

では、内臓治療をする際にどのように考察すべきか？

- 1日、2日で終わってしまう場合は、①**排泄能力が低下して生理が早く終わってしまう…** ②**ホルモン（エストロゲン）の影響により子宮内膜が作られない…**
- 長い場合は、**毒素**が体中にたまっていることが多いですね。だから解毒をし続けなければいけないことが原因。

あとは、出血です。出血量はどうか？出血の質はドロドロではないか？などを判断しましょう！

- ・**出血量が少ない場合は…**排泄能力が低くなっておりエストロゲンの分泌がいかなくて子宮内膜が育っていないということになります。
- ・**出血量が多い場合は…**毒素が多くて排泄物が多いということになります。

なので、期間と出血量である程度体の状態が分かります。

- ・期間が長くて出血量が多い場合は、**体中に毒素が溜まっている**状態です…
- ・期間が短くて出血量が少ない場合は、**排泄能力が低くなっている**ということですよ…

そこから、栄養指導や内臓治療の考察につなげることがベスト。

臨床上一番生理痛で多い原因は、**毒素**です。

先ほども話した通り毒素が溜まっているため、期間が長くなってしまったり痛みが強くなり出血量も多い状態となってしまいます。



# 生理痛評価②

## ①痛み

痛みに着目するのも大事ですが、痛みの改善を目的にはしません。  
あくまで、『月経を正常に経過させる』事を目標とします。

## ②期間

だいたい正常は4～5日ぐらいです。

## ③出血(量・質)

この質と量も子宮の状態やホルモンバランスを把握する上で必要な情報になります。

※まずは期間についてお伝えします。

### ①短い(約2日)

排泄能力が低く、子宮内膜が育っていない状態。

### ②長い(約10日)

排泄物が多く、身体に毒素が溜まっている状態。

## ①量少ない

排泄能力が低く、子宮内膜が育っていない状態。

## ②量が多く、レバー

排泄物が多く、身体に毒素が溜まっている状態。

出血量が少ないということは、  
排泄する能力が弱く、十分に毒素を排出できていない事や  
子宮内膜自体が十分に育っていない可能性が考えられます。

逆に出血量が多いということは、  
毒素が体内に大量に溜まっていて、  
その大量の毒素を生理を通して排泄しているということになります。

## 臨床の経験上

- ・期間が短い人は量が少なく、
- ・期間が長い人は量が多く、レバー状であるパターンが多いです。

臨床的に多く感じるのは

『痛みが強い、期間が長い、量が多くてレバー状』  
のパターンです。

# 生理痛アプローチ

## 【生理痛アプローチ】

- 内臓治療の前に子宮周りの腰椎や骨盤、股関節などの骨格治療や周囲の筋膜調整（大腰筋、横隔膜、腸骨筋など）も必要です
- 子宮、卵巣の栄養血管である腹部大動脈や総腸骨動脈などのアプローチも必要となってきます
- 子宮、卵巣自体の内臓治療が必要+肝臓から腸を介しての子宮圧迫を防ぐために肝臓リフト。他にも子宮周りの腸や膵臓治療なども必要となってきます
- 下垂体治療によるエストロゲンの分泌を促すことも必要です

## 【生理痛改善のための生活指導】

食生活やストレスの指導も非常に重要となります！

特に**脂質が原因**です。

これらが肝機能を低下させホルモン代謝異常やエストロゲンも過剰となってしまいます…そして、痛みや期間、出血量の変化を起こしてします！

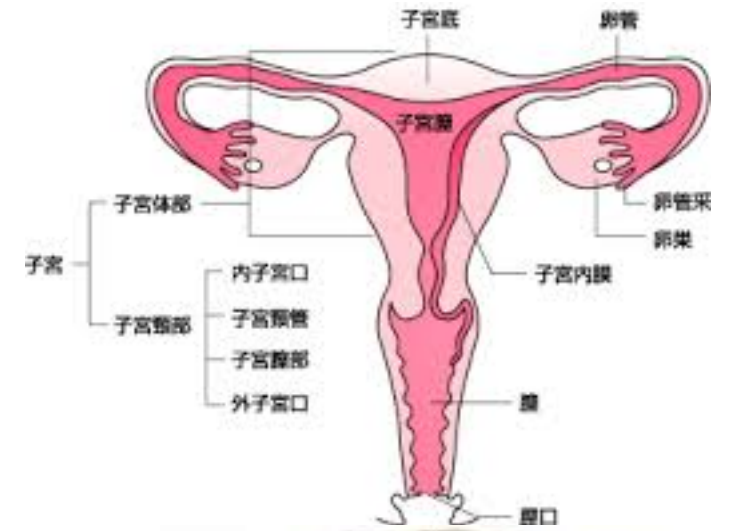
## 【生理痛に必要な内臓アプローチ】

子宮、卵巣、下垂体、副腎、肝臓、視床下部、腸

（無月経の場合は免疫系の治療も必要、脾臓、胸腺、腸など…）

# 生理痛改善テクニック実践編

- 子宮調整テクニック  
指標：骨盤可動性チェック
- 縫合マッサージ  
蝶形骨のセアライメント調整



# 前頭骨リリーステクニック

## ①前頭骨リリース・リフト

### 【評価】

- ・ 1次呼吸
- ・ 頭の重さ
- ・ 肝臓の硬さ、反射点、ROM（肩屈曲・体幹伸展）
- ・ アライメント（左右）
- ・ 熱のこもり

### 【テクニック】

前頭骨リリース・前頭骨リフト

### 【ポイント】

- ・ 左右差の改善を意識する



# アレルギー＋花粉症

## 【花粉症について】

花粉症はスギやヒノキなどの花粉が原因となるアレルギー性の病気です。

## 【アレルギー＋花粉症 必要な内臓治療＋頭蓋アプローチ】

肝臓、脾臓、胸腺、腸、副腎、下垂体

## 【花粉症に必要な筋骨格アプローチ】

斜角筋、後頭下筋、横隔膜、胸椎

# 側頭骨リリーステクニック

## 【評価】

- ・ 1次呼吸
- ・ 頭の重さ
- ・ 腎臓の反射点、ROM（・ 頸部側屈、体幹伸展・ 膝倒し）
- ・ アライメント（左右）
- ・ 熱のこもり

## 【テクニック】

相反テクニック ・ 側頭骨リリース、耳管を利用したテクニック

## 【ポイント】

左右差の修正、動きを引き出す



# 頭痛改善テクニック

## 【頭痛の原因】

排泄(解毒)機能低下、脳血流異常、脳脊髄液の還流不全

## 【頭痛に必要な内臓・頭蓋アプローチ】

- 便秘など（小腸、大腸、肝臓、胆のう、十二指腸、すい臓、胃）
- 生理関係（肝臓、腸、子宮）
- 排尿障害（腎臓）
- 心臓
- 脳脊髄液の貯留改善（特に側頭骨・蝶形骨）

## 【筋骨格アプローチ】

- 板状筋、胸鎖乳突筋、僧帽筋・・・治療するだけで、脳脊髄液循環改善にもなります。
- 後頭下筋・・・目の動きと関連しており、目線を動かすだけで後頭下筋が常に働いております。C 1～2 と関連あり脳脊髄液も関与。
- 斜角筋・・・首の付け根、特に前部繊維を緩める！
- 咬筋・・・側頭筋も硬くなってしまうリスクあり
- 顎二腹筋・・・外頸動脈の圧迫から頭痛に
- 肩甲胸郭関節・・・肩甲帯周囲の筋肉と関与 最後にやるとベスト！
- 側頭筋・・・猫背⇒僧帽筋硬くなる⇒帽状腱膜硬くなる⇒側頭筋硬くなり循環障害からくる頭痛になるパターンがあり

本日は誠にありがとうございました。

ALLアプローチ協会の想い

本日はご参加頂き誠にありがとうございました。

私たちは、受講生の人生が楽しく治療に自信を持って行なって頂けることを目指し

日々セミナーを開催しております。せっかくの人生ですから、悔いのないように過ごして頂けることを心より祈っております。

ALLアプローチ協会 代表 山口拓也

- ・せっかくのご縁なので、代表とライン交換もしておりますので良かったら宜しくお願い致します。
- ・また、お会いできるのを楽しみにしております。



# 1日セミナーお疲れ様でした。

・内臓治療・頭蓋仙骨療法は、1日でマスターできるものではありませんので日々実践を繰り返してください。

本日は、本当にお疲れ様でした。  
次回も誠によろしくお願い致します。

(連絡事項)

【プレミアムコース】

■セミナー参加者特別価格にてご案内  
詳しい情報を知りたい方は、代表に直接ご連絡下さいませ。

セミナー参加から3日間の対応となっております。

【遊びながらの経営合宿（東京・大阪）】

■受講生と遊びながら合宿もしていますので、興味ある方はご参加下さいませ✨

